

町議会に関する情報は
「議会ホームページ」へ



かみとんだ 議会だより

特集

そもそも、選挙って なんだっけ？



住民座談会レポート ……P1～2

町民インタビュー …… 裏面

上富田町商工会青年部部長、観光協会副会長を
務める 嶋 和晃さんにお聞きしました！

発行／和歌山県上富田町議会 編集／議会広報特別委員会
〒649-2192 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来763
TEL(0739)47-0550 FAX(0739)47-5959

2026

9

No.195

UD
FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

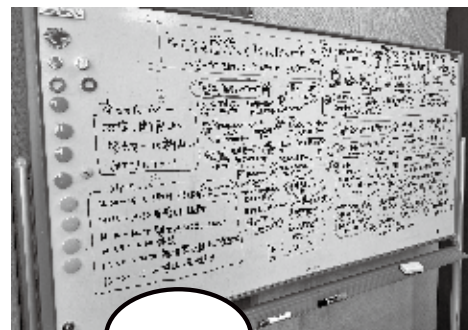
そもそも、選挙ってなんだっけ？

～みんなで話す、この町のきめ方・つなぎ方～

2026年7月3日、上富田町議会議員控室にて、「住民座談会」を開催しました。テーマは、今年4月に無投票となった町議選を契機に考える「選挙・議会・議員の役割」。農業、介護、教育、民泊経営など、多様な背景を持つ住民と議員がフラットに机を囲み、対話を行いました。

「そもそも選挙や議会って、自分たちの生活とどうつながっているんだろう？」

綺麗ごとだけではない、住民のリアルな“生の声”から見えてきた、この町の未来をつなぐヒントをお届けします。



① 行動すれば、町は変わる？

日常生活の中で「声を上げたことで、身の回りが変わった」という身近な成功体験から対話がスタートしました。



道路の冠水対応
通学路の冠水を議員に連絡したところ、わずか1時間で水門を開けて対応してもらえた (Tさん)

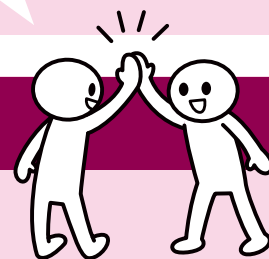
公園の設置
「地域に公園がない」と手紙を書いた結果、数年後に公園とトイレが整備された (Sさん)

声が届く実感
町の計画アンケートに「図書館の本の配置改善」を書いたら翌年改善。 (Hさん)

「チャイルドシートの補助金廃止は知らなかったが、社協の無料貸出を教えてもらい助かった。良い制度でも情報が周知されていない」 (Nさん)

② 選挙があった方がいい理由は？

無投票で終わった選挙に対し、「定数内であっても選挙は行うべきか？」という本質的な問いを掘り下げました。



「辞めてほしい議員がいても、選挙がなければ評価も審判もできない。通知表をつけられない状態になる」 (Hさん)

定数内でも選挙を行えば「1票しか得られないかもしれない」という緊張感が生まれ、民意が可視化される (Tさん・Yさん)

「自治体は株式会社、首長選は代表取締役の選定、議員選は社外取締役の選定」 (Yさん)

議員側の評価のためにも、有権者が4年間で振り返る機会としても、選挙は絶対に必要。定数を超えなくても選挙をすべきという考え方に賛同。

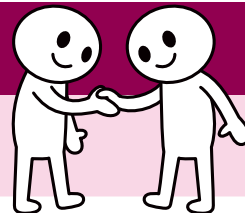
③ なぜ13人目が現れなかった？

定数12人に対し、立候補者が12人で無投票となった今回。なぜ「あと1人」が手を挙げづらいのか、構造的な課題が浮き彫りになりました。

「毎日の生活と選挙・政治がつながっていない」のが根本問題。文句は言っても、それが町政と結びついていない感覚がない。税金の使われ方・行政の動き方が「見えない」ままでは当事者意識は育たない。(Hさん)

選挙に出るには「組織づくり」が必要という感覚が先行し、組織に入れば手伝わないといけないというプレッシャーから遠ざかる人が増えている。議員の評価が「仕事の中身」ではなく「組織力・人間関係」で決まりがちな側面もある。(Yさん)

行政に期待も要望も出さない人が多い。選挙に手伝いを頼むことも頼まれることも嫌がる空気感が広まっており、それが投票率低下・立候補者不足につながっている。(Tさん)



④ 対話の中から生まれたこれからのアイデア

課題をあぶり出さずだけでなく、これから上富田町が取り組むべき「具体的な一歩」についての提案が多数寄せられました。



【主権者教育】自分ごととして政治を学ぶ場をつくる

単なる見学にとどまらず、選挙権・被選挙権を間近に控えた世代が「もし自分が議員ならこの町をどうするか」を本気で考え、実際の議場で提案・議論する体験型のプログラムを実施を検討してはどうか。

地元・熊野高校はもちろん、町外の高校に通う町出身の生徒たちのもとへ議員が直接出向き「なぜ議員になったのか」「どんな壁があり、どう乗り越えたか」という、教科書には載っていない生身のストーリーを語り、政治を身近な「大人の仕事」として伝えてはどうか。

【情報発信の強化】「プロセス」を見せて関心を育てる

「要望した道路や公園はどうなった？」という疑問に応えるため、予算の執行状況や工事の予定・順序といった中間プロセスを、議会だよりや有線放送を通じて分かりやすくリアルタイムで発信してはどうか。

【議員・議会の行動】汗をかき、行動で背中を見せる

行政案の審議から、住民発案のルール作りへ。自ら汗をかき条例を制定する姿で、町の変わる希望を示せるのでは。



座談会当日は不参加だったものの、熱い思いを持つ住民の方々へ個別インタビューを実施。町の未来をつむぐ貴重なご意見を紹介します。



Yさん

Q:無投票について

A:無投票は良くないと思う。投票した方が、応援した人に自分の意見を伝えやすいと思うから。

Q:議員の成り手不足について

A:給料など待遇含め、なるメリットが少ない。僕らの世代には興味がない人が多いイメージがある。



Kさん

Q:無投票について

A:自分も含め、この町を良くしたいという人材が少ないことによって無投票になっていると思う。結果的に相応しくない人でもなってしまうから。

Q:議員の成り手不足について

A:政治家に対して良い印象がないので、自分自身はやりたいたと思わない。人間関係や周りからの目など、色々と苦労しそう。

座談会を終えて、住民の皆様の町への深い愛着と期待を肌で感じました。選挙や議会は遠い存在ではなく、私たちの暮らしそのものです。今回の対話を一歩目とし、住民と議員が共に考え、共につくる上富田町を目指します。



開催概要

日 時:2025年7月3日(金) 14:00~15:40(約1時間40分)
場 所:上富田町議会議員控室
主 催:上富田町議会 広報委員会
司会進行:山本賢 副委員長(ファシリテーター)
参加者計13名(住民参加者 約8名 / 広報委員4名 / 議長1名)

あなたの「生の声」が、これからの上富田町をつくります。

初めての住民座談会を終え、私たちは「もっと多様な声を聴き、町政に活かしたい」と強く感じています。今度は、あなたの声を聴かせてください。スマホで3分、簡単なアンケートにご協力をお願いします！



目次



- 特集記事（座談会） P.1 ～ 2
- 議会報告 P.11
- 委員会レポート P.12
- 町民インタビュー 裏面
嵯和晃さんにお聞きしました！



動画配信も
しています！



議会 YouTube
QR コード



榎 本 修 士 議員

1. 教育環境及び就職環境をアップデートするための進路キャリア支援のサポートデスク設置について



YouTube QR コード

キャリア支援刷新

高校のカリキュラム把握と進路マッチの解消について

問 高校ごとの履修科目の違いによる進路不適合を防ぐため、行政側が近隣高校の授業内容を把握・分析し、中学生や保護者に提示できる専門の相談体制をつくるべきでは。

答 現在の町教育委員会の体制では専門員の配置は困難だが、学校との連携を深め、複雑化する相談に対応するための情報収集や発信について研究を進めていく。

専門学科からの就職支援とインターンシップについて

問 高卒就業者の早期退職を防ぐため、企業や卒業生と連携し最新情報を提供すべきでは。

答 県立高校へのアプローチや新規制度の構築は人的・予算的に困難だが、趣旨は重要である。既存のインターンシップ事業等の情報を収集し、関係機関との連携を模索する。

国際交流事業の質的向上について

問 20年以上続くタミンミン校との交流を一過性にせず、時差がほとんどないという利点を活かし、オンラインを活用して通年プログラム化すべきではないか。また、公共施設を活用し、渡航しない生徒も広く学べる機会を作るべきでは。

答 ICT活用も含めた事後学習の在り方について検討を進める。中学校や関係団体と相談しながら、公共施設を活用した情報交流の可能性についても模索する。

進学費用に関する理解と奨学金情報のワンストップ提供について

問 複雑な奨学金制度の申請をサポートするワンストップ窓口を設置すべきではないか。また、町独自で技術職に絞った給付型奨学金の設立を検討できないか。

答 独自窓口は困難だが、情報提供に努める。給付型奨学金の導入予定はないが、町貸与型奨学金の手続簡素化や返済期間の柔軟化を通じ、関係人口創出に向け関係部署と研究に取り組む。

教育長に聞く『進路キャリアサポートデスク』の窓口設置の期限について

問 進学・就職・国際交流・奨学金を一括して行う相談窓口を設置し、町から旅立った子供たちをインターンとして受け入れ、地域と交流してもらうことで、自身の困難時に心のルーツを探しに町に戻ってきてもらえる環境を作ることができる。その取り組みが町の関係人口を増やし、地域振興にもつながるのでは。

教育長 指導主事2人という限定的な人員で新たな部署の立ち上げには課題もあるが、議員の視点にはたいへん共感する。学校への支援を大切にしつつ、提案の特設窓口設置や出身学生によるインターンシップも視野に入れ、創意工夫と関係機関との連携を密に取っていく。





山 本 賢 議員

1. 総合計画が目指す「豊かな町」の実現に向けた、組織とコミュニティの変革について
2. 新時代を生きる子どもたちと共に学ぶ教育のあり方について



YouTube QR コード

町の未来は
対話から

地域コミュニティの再定義（町内会と若者定着）について

問 高齢化率の推移及び直近の町内会への加入率は、現在どのようになっているか。あわせて、役員の担い手不足といった現場の実態をどのように把握されているか。また、これまでどのような支援を行ってこられたか、その手応えと併せた現状の数値把握と課題についてはどうか。

答 高齢化率は令和 7 年が 28.1%、直近の町内会加入率は令和 8 年 3 月末で 54.38%。手応えについては、老朽化していた町内会館の改修により、地域の避難所としての機能が強化されたとの評価をいただいている。

若手職員の意識改革とやりがい創出について

問 町の課題を自ら発見し、解決策を考えるワークショップ形式の研修を庁内で導入してみたいはかがか。

答 職員が地域課題について考え、主体的に改善に取り組む意識を醸成することは、重要なことであると認識をしている。実施時期や方法は前向きに検討し、働くやりがいを実感し、成長できる仕組みを目指す。

口熊野マラソン休止にみる官民協働の検証について

問 官民協働の象徴であった口熊野マラソンの令和 9 年開催休止の決定について、休止に至った要因についてはどうか。情報共有と連携の在り方についてはどうか。

答 ワールドマスタースゲームズ 2027 ハーフマラソンの準備との関係から休止する判断をした。課題について、より早い段階で情報を共有する必要があったと認識している。今後、関係者の皆様とより丁寧な協議と情報共有に努める。

子ども議会の充実について

問 上富田町青少年育成町民会議の主催の下に実施されてきた子ども議会で提案したアイデアを一つでも実際の町政に反映できる仕組みを始めてみたいはかがか。

答 子供たちの発想を町政に反映させるためには、事業計画から検証まで共に考え続けるプロセスが必要不可欠である。子供たち自身が実体験として実感できるよう、他の取組事例も参考にしながら調査研究を進める。

不登校児童生徒の多様な学びと連携について

問 学校外で子供たちの活動や学びの状況を学校、地域、行政がフラットに共有し、上富田町型連携包摂モデルを本町で始めてみてはどうか。

答 学校復帰だけを目標とするのではなく、子供たち一人一人の多様な学びや成長を認め、それぞれが安心して居場所で主体性を発揮できるようにするための極めて有意義な考え方であると考えている。連携ネットワークの構築に向けた情報収集や研究を今後取り組みたい。

部活動の地域移行・展開について

問 民間クラブやスポーツ協会、シニアの経験も柔軟に組み合わせ、新たな運営モデルを一部の種目で試してはどうか。

答 地域の子供たちは学校を含めた地域で育てるという意識の下、地域の実情に応じ、最適化を図ってまいりたい。議員からいただいたアイデアも参考とさせていただきながら、各関係機関と精力的に協議を重ね、本町の全ての子供たちにとって、最適で持続可能な活動環境を整えられるよう努める。

体育館のエアコン使用料について

問 夏場の体育館での安全な活動環境確保は、子供の命を守るインフラとして捉えるべきと考えるが、町の認識はどうか。

答 空調の使用そのものに係る活動に係る経費につきましては、受益者負担の原則を基本としている。子供会活動そのものの支援策として、県補助金などの申請枠の拡大を要望するなど補助金の確保に努める。まずは、実現可能な支援策から進める。



井 溪 港 斗 議員

1. 紀州口熊野マラソンの継続と今後のあり方について



YouTube QR コード

大会の価値を
見つめなおし、
丁寧な協議を！

令和9年大会の休止方針と考え方について

問 令和9年大会の休止は正式に決定しているのか。また、休止方針は最終的に誰の判断で進められたのか。

答 令和9年2月の通常の紀州口熊野マラソンは、ワールドマスターズゲームズのハーフマラソンを開催する関係から実施する考えはない。休止方針は、ワールドマスターズゲームズ開催に伴う住民ボランティアの負担軽減について振興課が町長に進言し、その進言を踏まえ、大会長である町長の政治的判断である。

問 第29回、第30回という節目や、新たな取組が始まっている現状をどのように評価した上で、休止方針を検討したのか。

答 実行委員会の体制が変わり、新たな取組があることは、高く評価している。一方、高齢化によるボランティア数の減少もあり、住民に無理をお願いすることになるとの懸念がある。

実行委員会・関係団体への説明と協議について

問 実行委員会へ説明する前に議会へ休止方針を説明し、当初予算にも計上していなかった進め方は適切だったのか。また、実行委員会の意見によって休止方針を見直す可能性はあったのか。

答 令和9年2月の大会は予算計上しない判断をした。一方、実行委員会が大会の根幹に係る企画と活動をされるのであれば、補正予算対応の余地も残されているかもしれないという趣旨は申し上げた。今後は、より一層丁寧なコミュニケーションを心がける。

問 休止方針が町長の政治的判断であるならば、大会長として実行委員会に出席し、直接説明して意見を聞くべきだと思うがいかがか。

町長 振興課は実行委員会の事務局であり、事務局として丁寧に説明することが組織として適切な対応であると考えた。実行委員会や関係団体の意見は真摯に受け止めるが、住民負担軽減という基本的な考えは変わらない。今のところ、実行委員会に出席する必要はないと考えている。

町負担額、経済効果、PR効果の検証について

問 町は、紀州口熊野マラソンによる経済効果や地域への波及効果、PR効果をこれまでどのように検証してきたのか。

答 正確な経済波及効果の試算は行っていないが、観光庁の旅行・観光消費動向調査を参考に試算すると、和歌山県内を除く参加者で仮に全員宿泊された場合約8,476万円の消費額となる。ただし、上富田町だけでなく、西牟婁郡全体への消費額であり、あくまで目安である。

問 今後、紀州口熊野マラソンの継続や在り方を判断する際、町の負担額だけでなく、経済効果やPR効果も含めて総合的に検証し、その結果を町民に示していく考えはあるのか。

答 観光協会がスポーツ関連施設による経済波及効果調査を実施した経緯もあり、町として紀州口熊野マラソンに係る経済波及効果調査を行う考えはないが、観光協会で対応できるか、どうか協議したい。

休止以外の選択肢と今後の継続方針について

問 ワールドマスターズゲームズ開催を理由に休止するのではなく、規模縮小など休止以外の選択肢は検討したのか。また、「スポーツのまち上富田」という方向性と矛盾しないのか。

町長 今回の休止は、特殊な状況下における一時的な対応であり、「スポーツのまち上富田」という方向性と矛盾するものではない。令和7年度大会会計で生じた約410万円の余剰金を活用し、実行委員会が主体となって、10キロ走や子供マラソンなど規模を縮小した開催の可能性もある。ただし、町として補正予算で対応する考えはない。

問 今後、口熊野マラソンを本町を代表するイベントとして継続、発展させていく意思はあるのか。

町長 令和10年以降の大会開催の是非を含め、大会運営の持続可能性について検討するため、町民抽出による意向調査を実施し、総合的に判断する。意向調査の実施時期は未定である。



中井 照恵 議員

1. 出産後の保育継続支援について
2. 高齢者等に対するごみ出し支援について



YouTube QR コード

安心して暮らせる
町づくり

出産後の保育継続支援について

問 町立はるかぜ保育所において、第2子第3子を出産後、上の子どもの保育利用はどうなるのか。現状は。

答 町では国の方針に基づき保育を実施している。妊娠・出産前後は保育を継続利用できるが、育児休業中は0～2歳児クラスは原則退所の対象となる。一方3～5歳児クラスは子どもの発達や就学への影響を考慮し、町独自の配慮により継続入所が可能。また、保護者が離職した場合は0歳児から4歳児クラスは退所となる。

問 近隣自治体のように、0～2歳児クラスでも、育児休業中の保育継続利用を可能にする考えは。

答 保護者からの要望は認識しているが、保育の必要性が高い家庭を優先し、現時点で運用変更は難しいと考えている。

問 育児休業を取得できない保護者の3～5歳未満児の保育継続の取り扱いは。

答 保護者が離職し、保育の必要性がなくなった場合は、正規・パートを問わず、3.4歳児は退所を求めている。

問 妊娠・出産を理由に、3歳以上であるにもかかわらず、保育の継続利用が制限されることについて、子どもの育ちや生活環境の継続性という観点からも検討が必要では。3歳以上児の保育継続支援の充実について、町としてどのようにお考えか。

答 町では、3歳以上児の保育継続支援の充実は重要と認識している。しかし、現行制度では保護者の離職後の継続入所は難しい。一方で、子育て支援の充実に向けた課題として受け止め、今後は国や近隣自治体の動向も踏まえ、施設や待機児童の状況等を総合的に見極めながら研究していきたい。

高齢者等に対するごみ出し支援について

問 町では、ごみ出しが困難な高齢者や障害者の方に対し、どのような支援を実施しているのか。

答 高齢者には介護保険制度、障害者には障害福祉サービスを活用し、ごみ出し支援を行っている。制度に該当しない方には民間サービスの情報提供などで対応している。

問 高齢者を対象とした、見守りを兼ねたごみ出し支援を導入する考えは。

答 ごみ出し支援は見守りの観点からも重要と認識しており、他市町の事例を研究し、本町に適した支援の在り方を検討していく。

問 シルバー人材センターと連携したごみ出し支援を行う考えは。

答 シルバー人材センターとの連携は、ごみ出し支援や見守り、高齢者の就労機会の創出につながる有効な取り組みと認識している。具体的な仕組みづくりを進めていきたい。





家根谷 美智子 議員

1. 紀州口熊野マラソンについて
2. 中学校部活動の地域移行について



YouTube QR コード

経緯を問う

紀州口熊野マラソンについて

問 これまでの実績、役割などについての町の認識は。

答 和歌山県を代表するマラソン大会となるよう、地域スポーツの振興や観光スポーツの推進に努めてきた。さらに、住民の意識の高揚を促すとともに、地域経済波及効果、町のイメージアップを目指してきた。

問 本年度の大会休会を決定するに至った経緯と判断理由については。

答 紀州口熊野マラソンは、フルマラソン、ハーフマラソン等の実施による大規模ボランティアの動員や通行止め等が伴うことから、ワールドマスタースゲームズ2027、ハーフマラソン開催の準備との関係から休止する判断をした。

問 来年も参加予定していた方へのお知らせの配慮が要と思うが、お金が要ることがあれば余剰金も使えるのか。

答 お手紙等々、何らかの形でお伝えをするということも検討しなければならない。実行委員会とも相談しながら余剰金を使うか、多角的に検討していきたい。

問 今年出された第5次総合計画から、紀州口熊野マラソンに関して全てなくなっている。令和3年の総合計画には、紀州口熊野マラソンの参加者数の推移図表もあったが、この策定案の段階から、運営継続について取りやめる方向性が出ていたのか。

答 令和9年2月開催については一旦休止する方針を出しているの、延々と紀州口熊野マラソン

を今後やっていくと書くことは、計画との齟齬が生じる観点から、この総合計画の後期計画においては記載されていない。

問 410万円の余剰金もあるが再度このことに関して実行委員と話し合いは今後するのか。

答 小規模になってくるかも分からないが実行委員会の皆様方がよしやるぞということであれば、私ども事務局はもちろん協力はさせていただくと、その考え方に変わりはない。

中学校部活動の地域移行について

問 生徒が将来にわたりスポーツや文化活動に親しむ環境を維持するとともに、教職員の負担軽減を図るため、地域の実情に応じた取組が求められているところだが現在の進捗状況は。

答 現在SEACAにあるクラブに今ある中学校の中学生を受入れていただけるか、受皿の前提条件を確認しながら移行している。現状は厳しい状況で指導員確保の問題、補助金の制度、そういった状況も含め、課題は多い状況である。

問 武道館の使用について中学生同士で使用優先の順位が違っているが。

答 9つのクラブが学校のほうへまだ残っているので、学校側のほうへ調整をお願いし、臨時的な使用については、話し合いをしながらやっていきたいと考えている。



平 田 美 穂 議員

1. 未来を託す子どもたちが輝く まちづくりについて



YouTube QR コード

子育て支援の
充実に向けて

町長 3 期目の子育て施策について

問 町長は 3 期目を迎え、これからの 4 年間、子育て支援にどのような思いで取り組むのか。実現したい施策はあるか。また限られた財源の中で最も実現したい施策は何か。

答 1 期目から掲げる「未来を託す子供たちが輝くまちづくり」を 3 期目も優先して継続。これまで学校給食の無償化、子ども医療費対象の拡充、かみとんだ未来応援給付金、妊娠期の金芽米給付、出産後のお食い初めセット等を実施しており、財源を確保しつつ継続する。新たな取組として、子育て夢基金の活用により持続的に財源を確保するほか、母子手帳アプリの導入や予防接種のデジタル化など、子育て関連施策の DX 推進にも力を入れる。

子育て支援の取り組みについて

問 重点施策に掲げる「子供たちの育ちと居場所づくり」の実現に向け、今後どのような支援充実を図るか。子供の居場所は十分か、課題は何か。また新たに実施したい施策はあるか。

答 学童保育所に加え、児童館・公民館を活用し、南紀の台公民館では子育てサロンやちびっこ広場などを実施。ただし公園の充実や雨天時の居場所について保護者からの要望があり、今後の課題と認識している。今後は町内 4 か所の地域食堂（こども食堂）について、民間の力を借りつつ町も施設提供や新規開設を支援していく方針。地域食堂は子供の居場所であると同時に多世代交流の場ともなる。あわせて上富田中学校屋内運動場の建て替えなど教育環境の改善にも注力する。

保育料無償化の検討について

問 0～2 歳児の保育料は国の制度上、無償化の対象外で保護者負担がある。近隣の白浜町では既に無償化を実施しており、子育て世帯に選ばれるまちづくりの観点から、上富田町でも保育料無償化を調査研究する考えはあるか。子育て支援を「支出」ではなく「未来への投資」と位置づけ、将来的な保育料無償化を視野に入れた具体的検討を重ねて要望する。

答 0～2 歳児クラスの利用者数は町立はるかぜ保育所で 47 名（保育料収入約 1,000 万円）、町全体（広域入所含む）では 139 名。県の紀州っ子いっぱいサポート事業等を活用しても保護者の実質負担は約 2,900 万円。第 2 子（所得制限あり）・第 3 子以降はほとんどの世帯で既に無償となっている。

町長 限られた予算の中では、妊娠期から子育て期まで切れ目のない幅広い支援を優先する方針であり、保育料無償化は選択肢の一つとして、他自治体の先進事例や財政状況を踏まえて今後検討していく。





吉本和広 議員

1. 保護者の育休取得による保育所退所について
2. スポーツセンターのあり方について
3. 農業集落排水工事による道路損傷への対応について
4. 南紀の台の道路改修について
5. 社会教育施設郷土資料館について



YouTube QR コード

法と条例に
基づく町政に！

保護者の育休取得による保育所退所について

問 みなべ町、田辺市、白浜町、すさみ町の周辺市町村では、出産後、育児休業に入った保護者は、上の子どもが保育所の0歳から2歳クラスに通っている場合は、育児が大変な実態であるため、退所しなくていいことになっている。しかし、上富田町は、上の子は保育所を退所しなければならない。周辺市町村のように改善すべきでは。

答 言われた自治体が継続入所を認める運用になっており、保護者の方からの要望があるのは承知している。大変ありがたいことに、保育を要する児童数の状況も大きく減っている周辺市町の状況とは少し違う。子育て支援の充実に向けた観点から改めて検討を要する点があるのも事実である。今後の待機児童数や子どもの数、出生数の状況等も総合的に見極めながら研究していく。

スポーツセンターのあり方について

問 上富田町は条例で「スポーツセンターなど3つの体育施設の管理・運営に限り」振興課に移管している。調査、廃止・整備は、条例では教育委員会の権限である。しかし、野球場の電光掲示板設置については、町長は財政が困難なので見送るとしていたものを、1年も経たないうちに行うとした。町長が、電光掲示板設置について、総合会議を開いて教育委員会に意見を言うことはできるが、権限を持つ教育委員会が設置するかしないかを決めて、教育委員会の予算として計上しなければならない。町長は、電光掲示板設置について教育委員会に通知し、議題として会議を行ったか。



答 総合教育会議においては、電光掲示板の設置については議題として取り上げていない。

問 町長は体育施策整備の権限を持っておらず、整備の執行権を持つ教育委員会が行うか決めて執行するという法に基づく条例と法に、町長が違反しているのではないか。

町長 違反しているとは考えていない。

問 条例に体育施設の管理・運営に限ると書いているのは何なのか。

町長 令和4年の上富田町体育施設の職務権限の特例に関する条例について、スポーツセンターを含む上富田町体育施設の管理及び執行をする教育事務についての権限を移管する際に、総合教育会議において上富田町体育施設の基本的な運用方針については合意形成しているところである。

問 法と条例を守り、町民のスポーツ振興のための体育施設の活用、整備を考え、執行するのは教育委員会であると、町長は認識すべきである。また、6月5日に約2億5千万円で業者と委託契約（町が業者を指名して行う特命随意契約）を結んだ。この契約は、契約についての法と町の条例で5000万円以上の工事又は製造の請負契約は、議会の議決がいるとなっているが、議会にはかられていない。神戸市長が委託契約で議会にかけず契約し、法を犯したと謝罪して追認議案を出している。法律と条例違反では。

答 本契約は工事ではなく業務委託であるため、この規定の対象外ということが考えられる。

問 神戸市は金額以上の工事と管理するシステムも含めて業務委託したが、神戸市長が法違反で謝罪までしている。町の契約の取り付け工事が5000万円以上の6180万円で、2億5千万円の契約の93%が工事と製造請負で違法では。

答 全員協議会、総務文教常任委員会の資料に工事という表現があり、混乱を招いた。

※この他、3. 4. 5. の項目についても質問をしています。

議会報告



5月臨時会 会期(令和8年5月18日) 1日間

議案審議 YouTube QR

私はこう判断 (○賛成、×反対) *議長は採決に加わりません		山本 賢	榎本 修士	井浜 港斗	正垣 耕平	栗田 八郎	平田 美穂	家根 谷美智子	中井 照恵	吉本 和広	谷端 清	松井 孝恵	榎木 正行	会議の結果
条例改正	税条例の一部を改正する条例	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
	国民健康保険税条例の一部を改正する条例	○	○	○	-	○	○	○	○	×	○	○	○	承認
	地方活力向上地域における固定資産税の特別措置に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
令和7年度補正予算	一般会計(第10号)	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
人事	監査委員(1名) *6月号で紹介	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	同意



6月議会 会期(令和8年6月9日~22日) 14日間

議案審議 YouTube QR

私はこう判断 (○賛成、×反対) *議長は採決に加わりません		山本 賢	榎本 修士	井浜 港斗	正垣 耕平	栗田 八郎	平田 美穂	家根 谷美智子	中井 照恵	吉本 和広	谷端 清	松井 孝恵	榎木 正行	会議の結果
条例改正	消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例	○	○	欠	-	○	○	○	○	○	○	○	欠	可決
	介護保険事業計画等策定委員会設置条例の一部を改正する条例	○	○	欠	-	○	○	○	○	○	○	○	欠	可決
令和8年度補正予算	一般会計(第1号)	○	○	欠	-	○	○	○	○	×	○	○	欠	可決
	下水道事業会計(第1号)	○	○	欠	-	○	○	○	○	○	○	○	欠	可決
人事	教育委員会委員の任命(1名)	○	○	欠	-	○	○	○	○	○	○	○	欠	同意
その他	物品購入契約の締結	○	○	欠	-	○	○	○	○	○	○	○	欠	可決
議会関係の主なもの	一般会計補正予算(第1号)に対する修正案(吉本議員より修正動議が出されました)	×	×	欠	-	×	×	×	×	○	×	×	欠	否決
	アメリカ・イスラエルとイランとの交戦状態の即時収拾を求める意見書	×	×	欠	-	×	○	×	×	○	○	○	欠	否決

人事案件

令和8年6月30日付で、上富田町教育委員会委員の任命につき議会の同意を求めるもの

●朝来 岩崎 央 氏 (新任)

委員会レポート

常任委員会は、定例会前等で開催され、所管する事務について町当局から説明を受ける他、現地視察などの調査を行っています。

総務文教常任委員会

【調査日】 令和8年6月1日、6月9日

令和8年度 非常備消防事業 消防ポンプ自動車購入

29,479,910 円（税込） 第3分団配置

災害時における避難所等施設利用に関する協定締結

株式会社 後工務店 施設名 シンワハイム（全6室）
災害時に応援職員や要配慮者等の避難先として利用するための協定であり、その場所と部屋の様子を視察



紀州口熊野マラソンの

今後のあり方に関する意向調査について

令和8年度については、令和9年5月に「ワールドマスタースゲーム 2027 関西（ハーフマラソン）」の開催があるため休止となっている。近年のボランティアの人材確保の困難や、地域住民への負担軽減等の観点から運営継続については課題も多く今後の施策方針の参考のため町民抽出による意向調査を実施することとなっている。

郷土資料館について

郷土資料館の老朽化の様子と展示物の移転先を視察



厚生建設常任委員会

【調査日】 令和8年6月2日

暮らしを支える施設・事業の現状を調査

厚生建設常任委員会では、町民生活に関わる施設や事業について説明を受け、現地調査を行った。

①下鮎川児童館の建て替え

老朽化に伴う建て替えに向け、現地の状況や今後の整備方針を確認した。



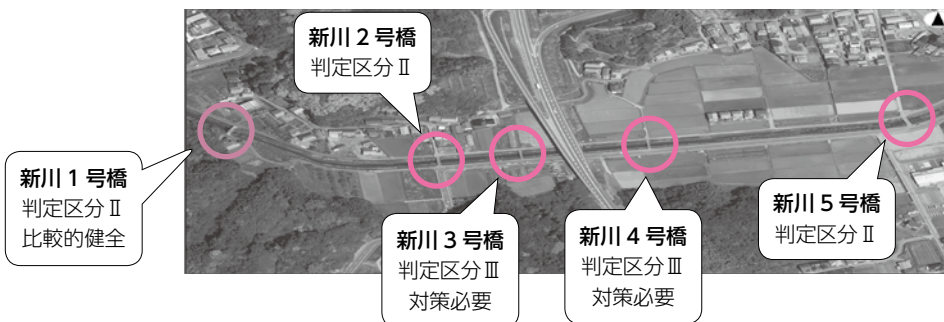
②シルバー人材センターの現状

会員数や受注状況、運営上の課題などについて説明を受け、現在の状況を確認した。



③新川にかかる橋梁の集約化

現在ある4橋を2橋に集約する計画について、安全性や維持管理、地域への影響などの説明を受けた。



特集 町民インタビュー

人口減少が進む上富田町。この課題に「スポーツ」と「教育」で挑むのが、一般社団法人南紀ウエルネスツーリズム協議会GM、商工会青年部部長や観光協会副会長を務める嶋さんです。スポーツ合宿で外から人を呼び込み、地域を元気にする仕組みとは？そして、次世代の主役である子どもたちへの熱い想いまで、上富田の未来を変えるワクワクするお話を伺いました！

Q 今、上富田町に対してどのような危機感や想いを持っていますか？

A 人口減少時代において、人そのものが減っていく。若者がどんどん出ていくと、町から活力やお金の循環がなくなってしまう、今までの生活やこれまで買っていたものが買えなくなり、これまでの生活を維持できません。内向きの町ではなく、広く町外・県外・海外と交流しながら、人の交流と、経済の交流を増やしていくべきです。

Q スポーツ施設を活かして、どのような地域活性化を進めていますか？

A 上富田スポーツセンターを町の集客装置ととらえて、県外の合宿チームを積極的に誘致し、町民との交流や、宿泊、弁当、食事を通して、地域の事業者さんと一緒に受入、住民同士の関わりも増やしなが、地域にもお金が回る仕組みをつくっていく、そんなモデルを目指して、日々活動しています。これからは上富田町だけでなく、田辺や白浜の地域との関りを増やして、関係人口をとにかく増やしていきたい。



上富田町商工会青年部の清掃活動



Q 「若者が帰りたくなる町」にするために、どんな工夫を考えていますか？

A 中学生、高校生のうちに、町が好きになる体験をすることだと思います。私が所属する上富田町商工会青年部や、上富田町観光協会では、地域の経営者や、2代目、また、県外の人々と一緒にイベントや企画を通して、学生の皆さんと町の関わりシロをつくり、学生の皆さんが学生のうちに、この町のことを意識したり、好きになったりするそんな機会をどんどん増やしていきたいと考えています。

Q これからの上富田町を担う子どもたちへ、どんな投資をしていきますか？

A 上富田町にしながら、世代や地域を超えてどんどんと交流、チャレンジする機会を提供すべきです。そのためには私たち大人が開拓精神をもって、地域内外の人とと交流し、良いサービスや機会をつくって、その背中を見せることも重要かと思っています。行政と民間がタッグを組んで、若者が地元で活躍しやすい環境を整えていきます！

編集後記

無事に座談会を終え、町民と議員がフラットに言葉を交わす中で、多くの気づきがありました。しかし、たった1回の対話で語り尽くせるはずもなく、まだ一部の声を聞き始めたに過ぎません。大切なのは、この対話を一回限りの点に終わらせず、少しずつ広げていくことだと感じています。選挙や議会を暮らしの身近なものにしていくために、これからも多様な皆様の声に耳を傾けながら、地道に対話を重ねていければと思います。（山本 賢）



町議会に関する情報は「議会ホームページ」へ



議会 YouTube QR コード

議会広報特別委員会

委員長	中井 照恵
副委員長	山本 賢
委員	榎本 修士
委員	井 深 港斗
委員	家根谷美智子
委員	吉本 和広

議会だより6月号、町民インタビューの「わらべうた」の掲載内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

【正】 ●はなちゃん ●めんめんすーすー ●おったこおったこ ●おふねがぎっちらこ

